

# **多賀町歴史文化基本構想**

平成 30 年 3 月

滋賀県多賀町教育委員会





「多賀大社参詣曼荼羅図」(江戸時代 多賀大社所蔵)



旧一圓家住宅（一円地区）



大蛇ヶ淵（犬上川）



山小屋群（入谷地区）



青龍山（敏満寺地区）

## はじめに

多賀町は、多賀大社や敏満寺を中心に古代からの遺跡が多く、歴史文化と自然豊かな地域です。特に多賀大社の多賀信仰は全国に広がり、年間約160万人の参拝者が訪れる県下有数の観光地でもあります。しかし、本町の面積の約8割は山間部で、地域全体は、少子高齢化が進行し、人口減少と山間部地域の集落を中心としたコミュニティの崩壊が進み、地域の文化や文化財が失われつつあるのが現状です。

こうしたなか、平成27年度から3ヶ年計画で歴史文化基本構想の策定に取り組みました。構想の策定にあたっては、町民皆様のご協力により文化財の総合的な調査を実施するとともに、関連文化財群及び保存活用区域の現状を明らかにし、多賀町が目指す歴史文化を中心とした構想をまとめることができました。

文化財を保存保護する目的だけでなく、自然を含めた地域の生きた「財」とするため、歴史文化に新たな価値を見出し、再認識することを基本的な考え方しました。そのためには、地域の方々が中心となり、生み出される文化を繋ぎ、育てるこそが大切であり、多賀町にある地域の可能性を広げたいと考えています。まだ、完全な構想ではないことは十分認識しており、多くの課題も明確になりました。今後も、継続してまちづくりと文化財保護に取り組むことを目指します。

最後になりましたが、策定にあたって歴史文化基本構想策定委員会委員、町民の皆様の多大なるご協力と文化庁、滋賀県教育委員会のご指導、ご鞭撻を賜りましたことをここに深く感謝いたします。

平成30年3月

多賀町教育委員会  
教育長 山中健一

## 例　言

1. 本書は、滋賀県犬上郡多賀町の「歴史文化基本構想」報告書である。
2. 本書は、平成 27 年度から多賀町歴史文化基本構想策定委員会、文化庁、滋賀県教育委員会事務局文化財保護課の指導・助言を得て、多賀町教育委員会が策定した。
3. 本構想の策定に関わる事務局は多賀町立文化財センターに置き、多賀町歴史文化基本構想の策定業務を株式会社環境事業計画研究所に委託した。
4. 本書に掲載した写真・図は、多賀町教育委員会が管理しているものである。また、動植物の一部の写真については、村長昭義委員の提供を受けた。
5. 多賀町都市計画に係る都市計画範囲等は、転記したものであり、詳細な区域を表現するものではない。
6. 本書は、多賀町教育委員会が執筆し、株式会社環境事業計画研究所が編集した。なお、第 2 章第 1 節第 2 項 地形及び地質 (P.14)、第 3 項 気候 (P.17)、第 5 項 岩石・鉱物・化石 (P.24) は、多賀町立文化財センター所長小早川隆が執筆し、第 2 章第 1 節第 4 項 植生 (P.19) は、村長昭義委員が執筆したものと、株式会社環境事業計画研究所で編集した。
7. 本構想は、平成 27 年度から 3 年間、文化庁の文化芸術振興費補助金を受けて策定したものである。

## 基本名称と用語の定義

本書が使用する基本的な名称・用語を下記のとおり定義する。本文中の名称と用語は基本的に統一したが、文献史料等から引用した箇所については原文を用いることとした。

本書では、文化財を広い意味にとらえ、国が文化財保護法第 2 条第 1 項に記載する定義にとどまらず、拠点となる建造物やそれらの群が形成する景観や周辺環境、また構成要素として重要な石碑や護岸なども含めながら、その歴史的な価値も認めて、多角的な歴史環境を形成する要素全体を「文化財」と称して表現するものとする。また自然環境を形成している構成要素やそれらが形成する景観は、「自然環境」という呼称とし、それらの価値づけや希少価値等に関わらない対象全体を指示示すものとする。なお、「歴史文化」「関連文化財群」は文化庁の策定技術指針によるものとする。

**修理：**破損部分を繕い、劣化した機能を回復し、庭園や建物の価値を継続させるために、専門的知識や技能を用いて行う手直し。

**修景：**周囲の歴史的風致（地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境）と調和するように配慮して、景観整備を行うこと。

**整備：**指定地とその周辺において、本質的価値を良好に保存し、なおかつ活用のために安全で良好な環境を維持又は創出するため、設備の新設や更新を行うこと。

**保存：**文化財の適切な状態での維持。

**活用：**文化財の公開による活用（鑑賞、学術的な利用等）。

文化財の地域振興等への活用（地域振興、観光・産業振興、まちづくり、教育等）。

**保全：**保護して安全であるようにすることを指し、文化財を利用しながら保存していく方法。

**地区：**町内の集落名、大字名を「○○地区」とする。

## 目次

卷頭図版	.....	i
はじめに	.....	ii
例言	.....	iii
基本名称と用語の定義	.....	iii

**第1章 背景と目的**

第1節 多賀町の文化財環境と背景	.....	1
第1項 歴史文化基本構想	.....	1
第2項 多賀町の歴史文化と構想の目的	.....	2
第2節 歴史文化基本構想の位置付け	.....	3
第1項 多賀町における位置付け	.....	3
第3節 多賀町歴史文化基本構想策定の調査・検討の進め方	.....	5
第1項 事業体制	.....	5
第2項 事業の進め方	.....	6
第3項 住民参加の実際	.....	6
第4項 調査の概要	.....	7

**第2章 多賀町の概要**

第1節 自然環境	.....	12
第1項 位置	.....	12
第2項 地形及び地質	.....	14
第3項 気候	.....	17
第4項 植生	.....	19
第5項 動物	.....	22
第6項 岩石・鉱物・化石	.....	24
第7項 風穴	.....	26
第2節 社会環境	.....	29
第1項 人口と集落の様子	.....	29
第2項 交通	.....	31
第3項 産業	.....	33
第4項 観光	.....	34
第3節 多賀町の歴史文化	.....	38
第1項 町名呼称の由来	.....	38
第2項 歴史的沿革	.....	38
第4節 多賀町の文化財	.....	44
第1項 多賀町の文化財の現状	.....	44
第2項 文化財把握の方針	.....	54
第3項 文化財位置図	.....	56
第4項 文化財一覧表	.....	58

### 第3章 多賀町の歴史文化・自然環境における保存活用の基本方針

第1節 保存活用の基本方針 .....	66
第1項 課題の抽出 .....	66
第2項 現況把握と体制づくり .....	67
第3項 基本方針 .....	67
第4項 各項目の方針 .....	69
第2節 多賀町の歴史文化・自然環境の保存活用の体制 .....	70
第1項 文化財の保存活用から考えるまちづくり .....	70
第2項 防災・防犯の体制 .....	70
第3節 多賀町における保存活用の現状 .....	74
第1項 多賀町の歴史文化・自然環境への取り組みの現状 .....	74
第2項 歴史文化・自然環境と都市計画の連動 .....	77

### 第4章 関連文化財群の抽出

第1節 関連文化財群を設定するにあたっての考え方 .....	79
第2節 関連文化財群の設定方針 .....	79
第3節 関連文化財群のテーマ設定 .....	80
第1項 「いのちの神様・お多賀さん -多賀信仰-」 .....	85
第2項 「重源上人ゆかりの寺 -敏満寺と胡宮神社-」 .....	87
第3項 「自然への畏敬と山の生活文化 -五僧越えの古道を中心とした-」 .....	89
第4項 「かんこ踊りと木地師の文化 -大君ヶ畠越えの古道を中心とした-」 .....	91
第5項 「水の神・大瀧神社と水辺の文化 -水とともにある暮らし-」 .....	93
第6項 「暮らしを支えた石の文化 -石灰岩・石材・化石-」 .....	95

### 第5章 歴史文化保存活用区域の考え方と設定

第1節 歴史文化保存活用区域の基本方針 .....	97
第1項 区域設定の基本方針 .....	97
第2項 地勢的特徴と交通網、歴史文化・自然環境の位置関係 .....	97
第2節 歴史文化保存活用区域 .....	98
第1項 「多賀大社参詣曼荼羅の世界とその周辺」歴史文化保存活用区域 .....	98

### 第6章 多賀町歴史文化基本構想の実現に向けて

第1節 体制整備 .....	100
第1項 歴史文化基本構想実現に向けた流れ .....	100
第2項 地域住民参加と産官学協働体制の模索 .....	101
第2節 支援体制とまちづくり .....	102
第3節 情報の共有化と公開方法の体制づくり .....	102
第4節 歴史まちづくり法における重点区域の抽出とまちづくりへの課題 .....	102
第5節 実現に向けた具体的な取組 .....	105

### 卷末資料

## 第1章 背景と目的

### 第1節 多賀町の文化財環境と背景

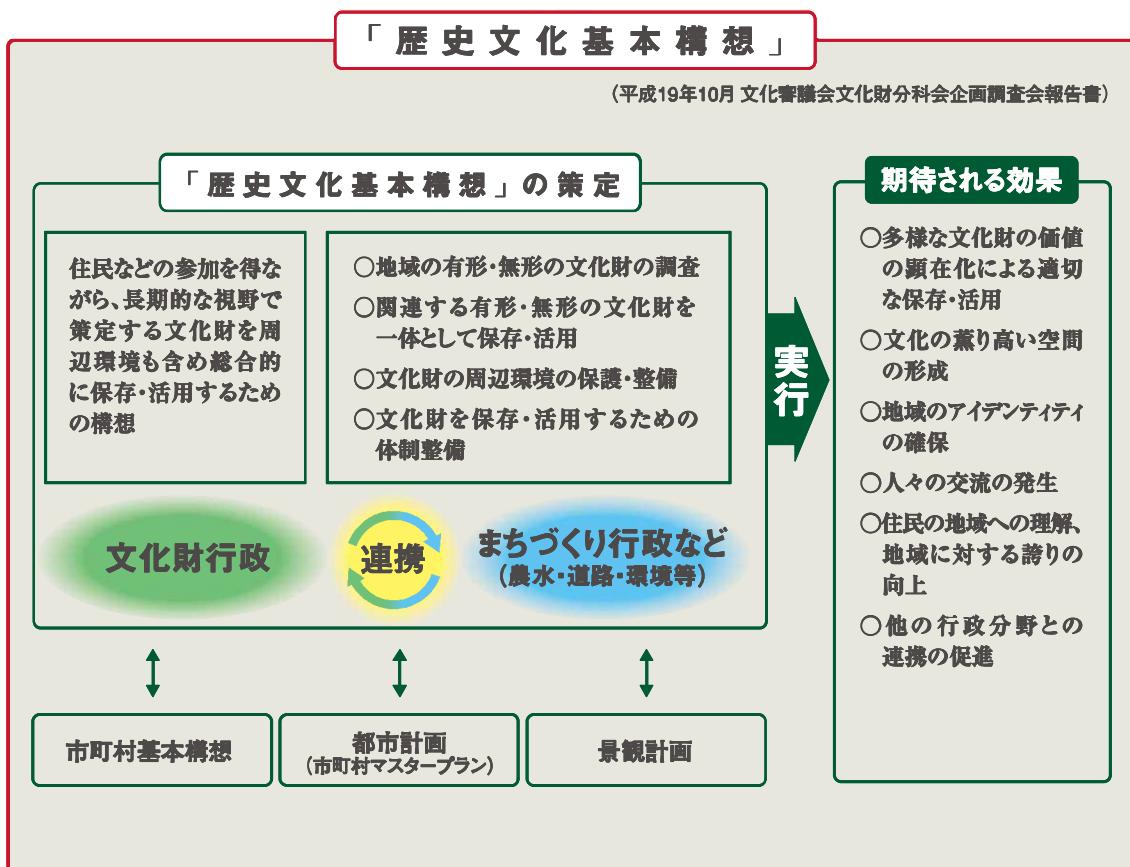
#### 第1項 歴史文化基本構想

「歴史文化基本構想」は、地域住民の参加をとおして地域の文化財を再認識するとともに、地域のアイデンティティを確保し、都市計画等におけるまちづくり施策との連携を図り、文化財を活かした関連施策を内包した将来を見据えることを目的としている。文化財の保護を前提に、歴史文化を活かしたまちづくりを目標とした新たな取り組みでもある。

つまり、文化財の保護は文化財保護法によるものだけでなく、地域の歴史文化・自然環境などを総合的に把握し、まちづくりや広域行政区の連携、地域文化の活性化事業に連携させ、活用させていくように進化してきたといえる。

将来的な文化財の保護は、地域の歴史文化・自然環境を地域住民が主体的に理解、評価し、それら地域社会に根付かせることが重要視されている。こうした歴史や自然、景観を基にした、地域社会づくりは、ひいては文化財を守っていくことにつながることが多い。

これらから、「歴史文化基本構想」は文化財保護のマスターplanとして、他の行政分野との連携をもたらし、地域住民と協働するための文化的指標となる。さらに新しいまちづくりの各種事業の基本的理念として取り扱われ、地域住民や地元各種団体の活動を開拓する基本方針としての性格を有するものとして位置づけできる。



[図 1-1] 歴史文化基本構想の概念図  
(文化財文化財部「文化財の保護とまちづくり」)

## 第2項 多賀町の歴史文化と構想の目的

町内には、多くの遺跡、多賀大社や胡宮神社などの社寺、化石等の自然の豊かさを示す文化財が存在している。平成29年3月31日現在、48件が国・県・町の文化財に指定されており、7件が国の登録文化財となっている。町内遺跡の発掘調査を継続して行い、敏満寺石仏谷墓跡等の史跡、多賀大社や胡宮神社に所在する名勝庭園の保存管理・活用計画を策定する等多くの文化財保護を目的とした調査・整備を行い、活用を検討している。

多賀大社を中心とした門前町のまちづくりは継続されているが、景観・町並み形成など課題は多く、全体的には、多賀町が過去に生み出した歴史文化に論拠をもつ、自然環境を含めた歴史文化の継承を多角的、かつ学術的な実践が追加されなければならない。

これらを受け、町内のあらゆる歴史文化・自然環境を見直す段階に来ていると考えられる。多賀町の大切な文化を継承していくためには、隣接する市町域に渡る歴史文化の成立と価値を再構築し、多賀町の将来につなぐビジョンと価値を地域住民が深く理解し、参加することが課題である。

一方、過疎化や高齢化により、山間部の集落存続は危機的な状況であるが、各集落には長年培われてきた風土と歴史文化が存在している。集落の歴史は、民俗資料としては各地域にしかない貴重なものであり、早急に記録保存する必要がある。特に、多賀信仰や敏満寺の歴史と関係することは重要で、これから「まちづくり」にも大きく影響し、広域でまとめることも重要な課題である。

さらに、地理的な観点から言えば、多様な気候帯が存在し、農林業でも特徴的な文化を継承している。これらは地域に根付いた文化であり、そこに新たな価値を見出し、まちづくりを検討するためには、歴史文化関係の調査はもちろん、自然史系調査を基礎として地域性や独自性を認識することも重要である。これらの課題解決は、観光だけでなく、経済・産業界や社会・福祉事業、地域の教育や都市部の教育フィールド等、様々な分野へ影響を及ぼすことになる。

これらから、文化財の保護を契機として、まちづくりの方針を構想として一致させることにより、地域文化の成熟と歴史文化・自然環境の保全と継承が可能となると考える。

住民参画による自治組織が地域の歴史文化・自然環境を核とした施策で連携しあい、コミュニティ形成されることを目的とし、「多賀町総合計画」や、「多賀町都市計画マスタープラン」で策定された計画を踏まえたうえで、「多賀町歴史文化基本構想」を策定する。多賀町の歴史的・地理的特色を再発見・再確認する機会と捉え、さらに今後、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（以下、通称：歴史まちづくり法）」などを取り入れながら、地域住民と共にまちづくりを実現するための基本方針とする。

なお、本構想は都市計画等の調整や関係部局と協議のうえで、進めるものであるが、今回は「多賀町歴史文化基本構想策定委員会」の提案として、今後の協議の基となるものを提示する。特に、第4章の関連文化財群と第5章の歴史文化保存活用区域においては、各部局だけでなく、地域住民や地元各種団体との協議も必要であり、今後の更新が想定される。

また、その都度パブリックコメント等を行い、さらなる周知を徹底する必要がある。今後、本構想の内容を更新し、定期的に見直す際に協議を進め、歴史文化保存活用計画、条例による規制緩和や「歴史まちづくり法」による新たなまちづくりへと展開させていくものとする。

## 第2節 歴史文化基本構想の位置付け

### 第1項 多賀町における位置付け

多賀町では、「第5次多賀町総合計画」(平成23年(2011)3月策定/2020年まで)において、「自然や歴史・文化に包まれた、キラリとひかるまち」を将来像に設定し、その実現のための戦略的施策のひとつに「環境や歴史・文化、風土を大切にしたまちをめざす」ことを位置づけるとともに「歴史と伝統文化の継承と活用」の推進を提唱している。

また、第5次多賀町総合計画を上位計画として策定した「多賀町都市計画マスタープラン」(平成24年(2012)3月策定/2021年まで)においても、「自然の神秘(なぞ)にあふれ 品格ある田園交流のまち」を将来像としている。次世代への歴史・文化的景観や農村景観などの多賀らしい品格あるまちを継承するため、町内の歴史遺産を歴史拠点として位置づけ、周辺地域と歴史遺産をつなぐ「扇形集約都市構造」の形成を目標に掲げている。

そこで「多賀町歴史文化基本構想」は、「第5次多賀町総合計画」「多賀町都市計画マスタープラン」を踏まえ、文化財の保存だけでなく、景観づくり、教育振興、産業振興、観光振興などの各分野の施策や計画の推進にあたって、歴史文化・自然環境の両側面から、多賀町の上位計画への連動の方向性を指示示す役割を有している。

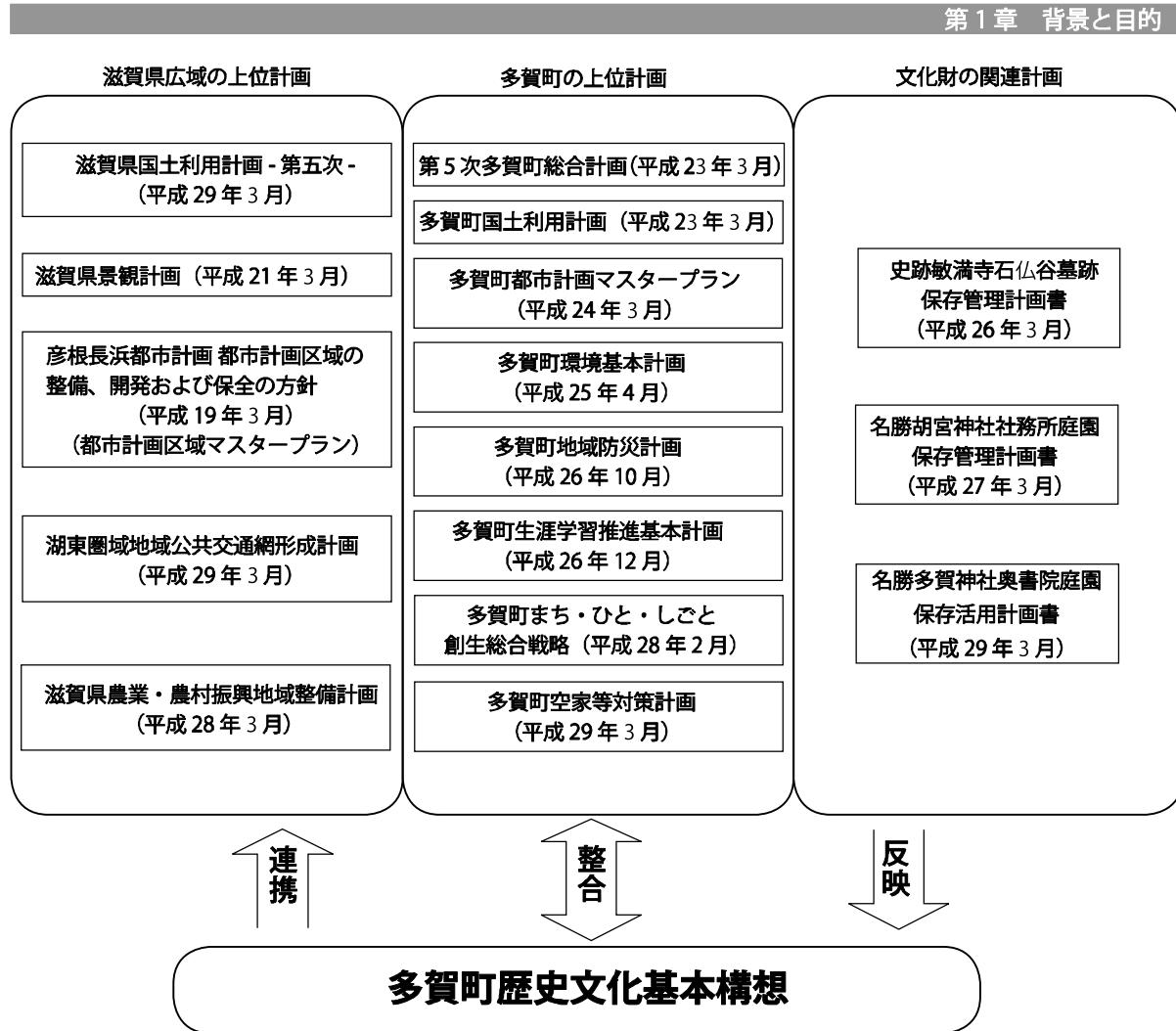
そして、将来的には「歴史まちづくり法」との連携を視野に入れながら、これまでに多賀町が掲げてきた将来都市構造案である「扇形集約都市構造」[図1-3]を地域区分の基本とし、さらに連携課題をまとめ、計画を行うために次の3点を既存のマスタープランから踏襲し、発展させることが考えられる。

「都市核」：西部の市街地の中心部

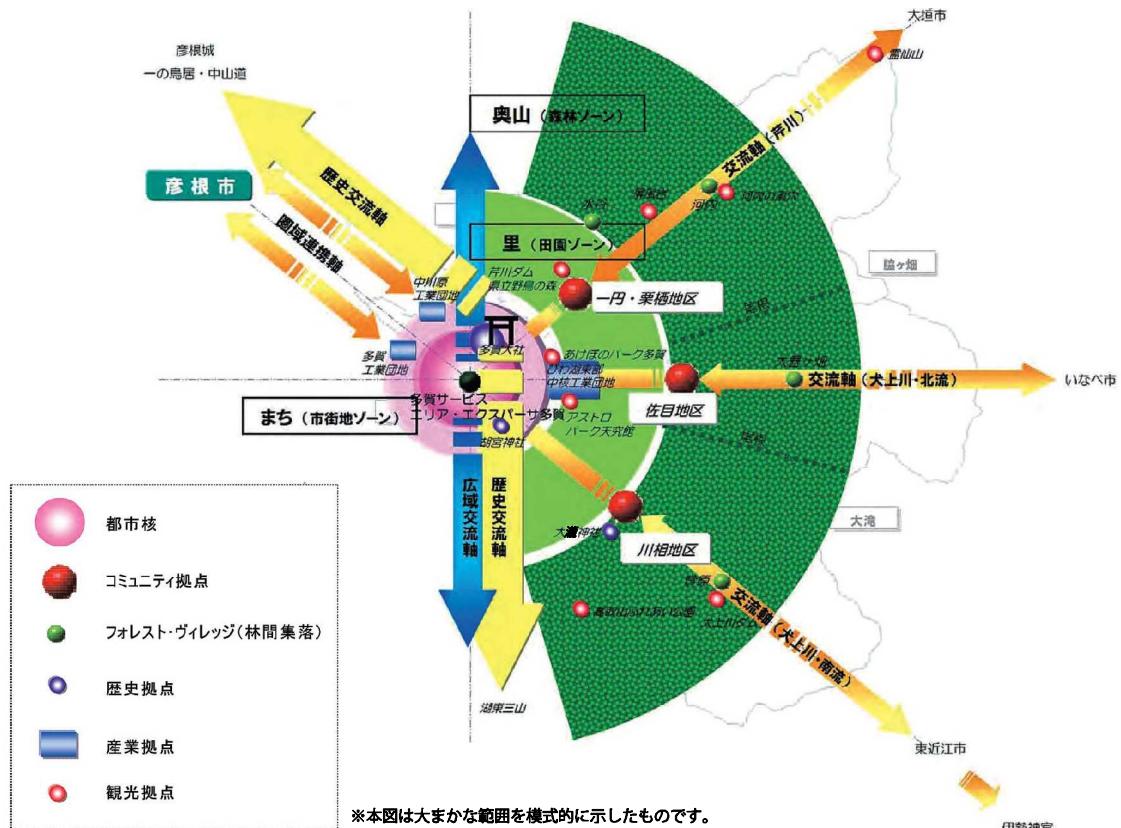
「コミュニティ拠点」：川相地区、佐目地区、一円・栗栖地区=都市核を補完

「フォレスト・ビレッジ」：山間部の維持向上すべき集落形成

また、これらを本構想では「歴史文化保存活用区域」に連動させ、特に多賀大社・敏満寺地区周辺に集中する歴史文化と山間部の集落景観や自然環境の再評価をはじめとし、その地域財産を有効化する事業を支援するとともに、個別に策定された「史跡敏満寺石仏谷墓跡保存管理計画」、「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画」、「名勝多賀神社奥書院庭園保存活用計画」等と連携を図り、今後、本構想に基づき、歴史文化を活かしたまちづくりの各種取り組みと連携方法を具体化していくことを目標とする。



[図 1-2] 多賀町の上位計画と関連計画



[図 1-3] 扇形集約都市構造の概念（多賀町「多賀町都市計画マスター プラン」平成 24 年（2012）3 月）

### 第3節 歴史文化基本構想策定の調査・検討の進め方

#### 第1項 事業体制

多賀町歴史文化基本構想を策定するにあたり、様々な観点からの検討を行うため、学識経験者や関係者、行政機関により「多賀町歴史文化基本構想策定委員会」（以下、策定委員会という。）を組織し、歴史文化基本構想の策定に向けて審議を行った。策定に関わる事務は、多賀町教育委員会が担当した。

【多賀町歴史文化基本構想策定委員会委員名簿】 ※〔 〕内は、専門分野等

委 員 長	濱崎 一志	滋賀県立大学 人間文化学部 教授〔建築史〕
副 委 員 長	市川 秀之	滋賀県立大学 人間文化学部 教授〔民俗学〕
委 員	井上 ひろ美	華頂短期大学 非常勤講師〔美術史・古文書〕
	川原 隆司	多賀大社 権禰宣 ※平成29年8月から
	近藤 英治	多賀町史編纂を考える委員会委員
	狭川 真一	元興寺文化財研究所 副所長〔考古学〕
	龍見 茂登子	多賀町史編纂を考える委員会委員
	土田 雅孝	(一社)多賀観光協会 事務局長
	富田 愛子	元多賀小学校校長
	中川 信子	多賀町立博物館協議会 副会長・多賀町文化財保護審議会 副会長
	平居 晋	多賀門前町共栄会組合員・(一社)杜ノ実 理事
	藤本 秀弘	山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会〔地質学〕
	三木 治夫	多賀大社 福宜 ※平成29年7月まで
	村長 昭義	龍谷大学 非常勤講師〔植物〕

[五十音順]

#### アドバイザー

文化庁地域文化創生本部  
滋賀県教育委員会事務局文化財保護課  
多賀町役場（総務課・企画課・産業環境課・地域整備課）  
中日本高速道路㈱名古屋支社 彦根保全・サービスセンター

#### 事 務 局

円城寺 守 多賀町教育委員会 教育長 ※平成28年9月まで  
山中 健一 多賀町教育委員会 教育長 ※平成28年10月から  
田畠 彰 多賀町教育委員会 生涯学習課 課長  
小早川 隆 多賀町立文化財センター 所長  
音田 直記 多賀町立文化財センター 所長補佐 ※平成29年3月まで  
参事 ※平成29年4月から  
阿部 勇治 多賀町立博物館 係長 ※平成28年3月まで  
本田 洋 多賀町立博物館 係長 ※平成28年4月から

吉村 龍二 株式会社 環境事業計画研究所 代表取締役  
北岡 慎也 株式会社 環境事業計画研究所 主任研究員  
山岡 由香 株式会社 環境事業計画研究所  
前中 弘子 株式会社 環境事業計画研究所  
藤澤 美幸 株式会社 環境事業計画研究所

## 第2項 事業の進め方

本構想は、文化庁文化財部による歴史文化基本構想のガイドラインに沿って計画し、滋賀県の指導を仰いだ。策定の目的や行政上の位置付け、歴史文化の特徴、文化財把握の方針、文化財の保存活用の基本的な方針、文化財の保存活用を推進するための体制整備の方針等を基本的な事項として調査することとした。

また、多賀町教育委員会が、相互に関連性のある文化財を一定のまとまりとして捉えた「関連文化財群」の考え方、文化財（群）を核とし文化的空間を創出するための計画区域である「歴史文化保存活用区域」についての考え方、その候補区域、文化財（群）を適切に保存活用（管理）するための方針などを検討する基礎資料を執筆し、それらの内容に関して、提案しながら協議を行った。

策定委員会においては、各分野の専門家で構成された委員、地域住民や行政関係者が集まり審議した。また、町内資料の収集や調査、文化活動・地域活動の紹介、多賀町を再発見するシンポジウム、講演会、ワークショップ、聞き取り、アンケート調査等も並行して行い、それらの発表や評価、現地確認も合わせて実施した。

## 第3項 住民参加の実際

「歴史文化基本構想」は、地方公共団体が策定することを基本とするが、従来のような行政主導ではなく、地域住民がその大切さに気付き、地域社会の中で保存活用していくために主体的に動いていくことが本来の姿であることから、地域社会の連携・協力体制が必要であると考える。そこで、座談会・ワークショップ等を中心に地域住民参加による調査を実施している。

現在、多賀町などで歴史文化・自然環境の視野に立って活動している団体や教育機関において、景観へのアプローチをはじめ、地域活性に向けた取り組みがあり、大学、研究機関の協力やボランティア、地域住民、N P O法人、企業等民間団体との連携が図られ、それらのネットワーク化を進めている。今回の策定においても、聞き取り、民俗調査では各集落における民俗や文献資料などが数多く寄せられ、継承者のいない文化財が数多くあることも把握した。またワークショップでは地元の活動グループでもネットワークが生まれつつある動きに合わせようとする声も上がってきた。こうした状況から歴史文化継承のコミュニケーションの必要性などは、相談窓口等の公表等にもつながり、継続的に住民との意見交換の機会を持つことの重要性が明らかになった。

「歴史文化基本構想」では今後もこうした住民参加の姿勢を継承しながら、まちづくりや地域景観づくりなど、地域住民の主体的な働きかけと連動して、規制緩和や独自の条例制定に向けた仕組みを作り出すことが重要と認識された。

## 第1章 背景と目的

### 第4項 調査の概要

平成27年度から着手し、3ヶ年で、下記の策定委員会、座談会、「多賀ぶら」ワークショップ、シンポジウム、各調査を実施した。ワークショップでは平野部と山間部の集落の景観構造等を確認した。

#### ●策定委員会開催経過

年度		日付	内容
平成27年度	第1回委員会	平成28年1月11日	・歴史文化基本構想について ・今後の事業の進め方について
平成28年度	第2回委員会	平成28年7月9日	・座談会のまとめ、町内文化財のリストアップ、調査計画立案
	第3回委員会	11月28日	・ゾーニングについて、ワークショップ計画
平成29年度	第4回委員会	平成29年8月22日	・歴史文化保存活用区域について
	第5回委員会	10月18日	・歴史文化保存活用区域・関連文化財群について
	第6回委員会	12月11日	・歴史文化基本構想の報告書のまとめ・概要版パンフレットについて



[写真1-1] 第1回多賀ぶらワークショップ座談会



[写真1-2] 第1回多賀ぶらワークショップ（多賀地区）



[写真1-3] 第2回多賀ぶらワークショップ（屏風地区）



[写真1-4] 第3回多賀ぶらワークショップ（大岡山）

#### ●「多賀ぶら」ワークショップ・企画展示開催経過

年度	日付	開催場所	内容
平成27年度	平成27年10月27日～11月8日まで	あけぼのパーク多賀	「私たちのまち紹介します」展示
平成28年度	平成28年2月20日～4月10日まで	あけぼのパーク多賀	「多賀八景展」 多賀町町制60周年記念事業 多賀町・多賀町教育委員会・多賀観光協会主催
	7月23日～8月21日まで	あけぼのパーク多賀	「多賀工場周辺の動植物たち」積水化学工業(株)共催
	10月22日～11月6日まで	あけぼのパーク多賀	「多賀八景展」(一社)多賀観光協会主催
	11月25日	あけぼのパーク多賀	「うみやまあひだ」映画会
	12月10日	多賀・敏満寺地区	・多賀大社と門前町、多賀SAなど
平成29年度	平成29年6月3日～7月2日まで	あけぼのパーク多賀	「山門水源の森の自然と保全から学ぶ」展示
	11月5日	後谷、屏風地区	・芹川山間部の集落めぐり
	12月16日	大岡山	・石切場散策と「石の文化」の講座

**多賀町歴史文化基本構想**

開催日時：平成28年12月10日（土）午前9:00～12:00 多賀門前界隈

**多賀ぶら ワークショップ ニュース vol.1**

発行：多賀町立文化財センター

**第1回多賀町歴史文化基本構想ワークショップ開催！**

平成28年12月10日（土）、多賀門前から敬海寺界隈にて、多賀町歴史文化基本構想に向けた、第1回住民参加ワークショップである「多賀ぶら」を開催しました。寒い中、多くの皆さまにご参加いただきました。

「多賀ぶら」では、参加された住民の方々に普段見慣れている風景を建築、歴史、景観面で見つめなおし、解説を聞きながら、多賀町のさらなる魅力や価値を再発見して景観構造を調べよう！という目的で、大字多賀界隈を散策しました。

**出発前の様子**

**鳥の巣山界隈の様子（多賀大社）**

**敬海寺界隈まで見つめなおす！（多賀門前界隈）**

**敬海寺道筋での様子（敬海寺サービスエリア界隈）**

**「多賀ぶら」って！？**

「多賀ぶら」は、住民の方が自分たちの住んでいるまちの魅力を再発見してもらうことを目的とした、街ぶら感覚で景観を見直そうという、ワークショップです。

当日は、多賀町役場前に集合して、多賀大社門前町から、敬海寺地区・多賀サービスエリアおよび胡宮神社を散策して、その後、「ここは」という景観の写真を見ながら分析し合うテーブルトークを行いました。

今後もテーマを自然などにも広げていこうと思っておりますので、ぜひ参加ください！

**タイムスケジュール**

- 8時50分：役場集合
- 9時00分：多賀ぶら開始！
- 9時30分：多賀大社前駅界隈 散策
- 10時00分：多賀大社前駅界隈 散策
- 10時10分：敬海寺地区界隈 散策
- 10時20分：多賀SAから胡宮神社界隈 散策
- 10時50分：胡宮神社会館 到着
- 11時00分：テーブルトーク開始
- 12時00分：テーブルトーク終了

**菅原先生（滋賀県立大学）の講義の様子**

**菅さまから出したキーワードのまとめ**

- ・普段見慣れている町並みも、専門的な意味を知ってみると、より魅力あふれた街並みに見えました。
- ・遠い山々まで見通すと、現代に失われた多賀町の立地やこの場所を選んだ意味が理解てきて、よかったです。
- ・昔には、相当手の込んだ仕事がなされていたことがわかりました。なぜここまでと思うほど、昔の人々の多賀に対する思いが伝わってきました。それらを見過ごしているのはもったいないと思いました。
- ・町並みを形成している民家の多様性に驚きました。いろんな時代や周辺地域の関係性が詰めているのには、なるほどなと思いました。
- ・古いというのは知っていましたが、もっと古いいろいろなものが継承されているのには驚きました。目に見えている景色は、受け継がれた景観構造があつてこそ景色であったのです。
- ・いろいろと勉強ましたが、まだ人に説明できるといえば、まだまだ感じます。また参加したいです。

このほかにもいろいろな話題が共有されました。

**「多賀ぶら」での散策ルート紹介！**

ルートマップ

- ① 多賀町役場
- ② 多賀大社
- ③ 立派な茅葺になりましたね。
- ④ 門前町の裏道にもいろいろ
- ⑤ 立派な茅葺だ！
- ⑥ 立派な茅葺になります。
- ⑦ お地蔵様の由来や祭りのこと！
- ⑧ かぎ桜 提供
- ⑨ お城跡
- ⑩ お城跡
- ⑪ 裏道だけ歴史がいっぱい。
- ⑫ サービスエリアに残る城跡は日本でここだけ。なんと貴重なD51が・・・

**[図1-4] 第1回多賀ぶら ワークショップニュース**  
\*他の回は巻末に記載する。

## 第1章 背景と目的

### ●シンポジウム等開催経過

年度	日付		内容
平成 27 年度	平成 28 年 3 月 19 日	歴史文化基本構想	・「これからの大賀のまちづくり - 自然と歴史を活かした挑戦 -」 座談会や特別座員による多賀の文化財の紹介
平成 28 年度	平成 28 年 8 月 11 日 9 月 10 日 9 月 24 日 10 月 8 日 10 月 29 日 平成 29 年 2 月 11 日 2 月 18 日 2 月 26 日 3 月 11 日	多賀 SL アクション 町民大学 町民大学 町民大学 町民大学 自然史講座 自然史講座 自然史講座 自然史講座	・SL 蒸気機関車について、パネル写真展示 ・「古民家を活かしたまちづくり」 ・「多賀の民俗の特色」 ・「多賀大社の境内と周辺の景観」 ・「近江における庭園文化について」 ・「多賀町の自然から考える - 宝の山 多賀町の地形地質 - 」 ・「峰にさされたぼうがまし」の真実 ・「化石でよみがえる多賀のまち」 ・「私たちの自然遺産」
平成 29 年度	平成 29 年 11 月 23 日	歴史文化基本構想	・「歴史文化をまちづくりにどう活かすか？」

※巻末に資料の一部を掲載する。

### ●各種調査

年度	日付		内容
平成 27 年度	平成 27 年 4 月 9 日 6 月 13 日 7 月 18 日 11 月 21 日 12 月 16 日 12 月 19 日 平成 28 年 1 月 16 日 3 月 1 日	聞き取り調査 聞き取り調査 聞き取り調査 聞き取り調査 聞き取り調査 聞き取り調査 聞き取り調査 祭礼	・萱原地区（大杉家） ・桃原地区 ・敏満寺地区 ・萱原地区 ・桃原地区（藤井家）（彦根市） ・久徳地区 ・敏満寺地区 ・市さんについて
平成 28 年度	平成 28 年 4 月 19 日 4 月 22 日 5 月 22 日 7 月 19 日 8 月 25 日・10 月 6 日 9 月 29 日 10 月 12 日 10 月 25 日 10 月 25～27 日 11 月 6 日 12 月 4 日 平成 29 年 1 月 6 日 2 月 7 日 3 月 23 日・5 月 1 日	現地調査 祭礼 民俗調査 民俗調査 聞き取り調査 民俗調査 聞き取り調査 民俗調査 民俗調査 聞き取り調査 聞き取り調査 民俗調査 聞き取り調査 民俗調査	・山間部集落めぐり（南後谷地区） ・多賀大社古例大祭 ・河内、下村地区 ・多賀地区 ・多賀地区（三木家） ・一ノ瀬地区（大道家） ・多賀地区（石田家） ・大杉地区（小井戸） ・多賀地区（三木家） ・大杉地区 ・大岡地区 ・土田地区（宮川家） ・多賀ごぼう（京都・錦 河一商店） ・尼子地区（辻家）
平成 29 年度	平成 29 年 4 月 22 日 5 月 10 日・25 日 5 月 19 日 5 月 21 日 5 月 30 日 6 月 19 日 6 月 20 日・7 月 25 日 6 月 24 日 7 月 9 日 7 月 23 日 9 月 12 日 10 月 7 日 10 月 10 日・13 日 11 月 4 日 11 月 18 日	祭礼 民俗調査 現地調査 民俗調査 民俗調査 現地調査 聞き取り調査 民俗調査 民俗調査 現地調査 民俗調査 民俗調査 民俗調査 民俗調査 民俗調査 聞き取り調査	・多賀大社古例大祭 ・中川原地区（新楽家） ・集落めぐり（大滝地区） ・甲頭倉地区 ・富之尾地区（坂上酒店） ・山間部集落めぐり（栗栖・杉・保月・五僧・桃原・落合地区） ・尼子地区（辻家） ・栗栖地区 ・久徳地区（うどんのぬた作り） ・多賀道について ・落合地区（藤井家） ・大君ヶ畑地区 ・藤瀬地区（イタドリのぬか漬け） ・五僧地区 ・南後谷地区

## ●古文書・民具調査

年度	日付	対象地区	内容
平成27年度	平成27年11月 12月28日	桃原地区 久徳地区	・森口家 古文書目録41点、写真41点 ・近藤家 歴史資料目録 31点
	平成28年1月13日 2月1日	桃原地区 久徳地区 久徳地区	・庵野家 民具・歴史資料目録147点（作業継続中） ・庵野家 古文書目録172点、写真172点 ・久徳公民館 民具目録、写真10点
	3月14日	栗栖地区	・桂 写真6点
	3月16日	下水谷地区	・写真56点、教科書（彦根市）186点
	平成28年4月29日	久徳地区	・久徳公民館 古文書目録3339点、写真1294点（作業継続中）
	5月14日	栗栖地区	・久徳区有文書 目録825点
	6月	富之尾地区	・西村家 古文書・民具目録 108点、写真108点
平成28年度	7月21日	萱原地区	・坂上商店 写真15点
	8月～次年度まで	敏満寺地区	・結婚式写真 56点 他115点
	11月1日	一円地区	・胡宮神社文書調査
	11月6日	大杉地区	・一圓屋敷 民具調査
	11月10日	多賀地区	・写真50点
	11月14日	桃原地区	・石田家 古文書44点（棟札・多賀大社建築物覚帳） 図面写真94点
			・森口家 古文書目録118点、写真118点
	平成29年5月18日	多賀地区	・三木家 古文書目録422点、写真234点（作業継続中）
平成29年度	5月30日	富之尾地区	・坂上酒店 写真15点
	6月3日	多賀地区	・八木家 歴史資料目録3点、写真3点
	8月6日	一ノ瀬地区	・上出家 歴史資料目録144点
	11月	一ノ瀬地区 屏風地区	・大道家 写真35点 ・坂本家 古文書目録40点（作業継続中）

※第2章第4節第4項文化財一覧表に古文書・民具の目録の一部を掲載する。

## ●アンケート調査（P10.11）

年度	日付	対象イベント・聞き取り調査	対象者	回答者数
平成27年度	平成27年10月27日 ～11月8日	「わたしたちのまち紹介します」展（企画展）	一般来館者	15名
平成28年度	平成28年5月22日	聞き取り調査	河内（下村・中村・宮前 ・山女原）地区民他	34名
	6月25日	聞き取り調査	多賀地区民	16名
	7月19日	聞き取り調査	多賀地区民	24名
	8月11日	狭川氏（SLトーク）	一般参加者	30名
	10月1日 ～10月31日	SLパネル展示	一般来館者	20名
	9月10日	濱崎氏（町民大学）	町内受講者	30名
	9月24日	市川氏（町民大学）	町内受講者	27名
	10月8日	井上氏（町民大学）	町内受講者	32名
	10月29日	吉村氏（町民大学）	町内受講者	25名
	11月6日	聞き取り調査	大杉地区民他	27名
	11月25日	「うみやまあひだ」（映画会）	一般参加者	5名
	12月4日	聞き取り調査	大岡地区民他	12名
	10～12月	「多賀町歴史文化基本構想に関するアンケート」	大杉、多賀、栗栖地区 町外の方	24名 20名
	平成29年2月11日	自然史講座 第1回	一般受講者	12名
	2月18日	自然史講座 第2回	一般受講者	11名
	2月25日 ～4月9日	『「山門水源の森の自然と保全」から学ぶ』展 (企画展)	一般来館者	18名
	2月26日	自然史講座 第3回	一般受講者	12名

## ●アンケート調査 (P10.11)

年度	日付	対象イベント・聞き取り調査	対象者	回答者数
平成28年度	平成29年3月11日	自然史講座（シンポジウム）	一般受講者	8名
平成29年度	平成29年5月21日	聞き取り調査	甲頭倉地区民他	19名
	6月24日	聞き取り調査	栗栖地区民他	20名
	11月18日	聞き取り調査	南後谷地区民他	25名
	11月23日	シンポジウム	一般受講者	10名
	12月3日	聞き取り調査	川相地区民他	21名
				合計 453名

※巻末にアンケート調査の結果の一部を掲載する。

今後も必要な調査は下記のとおりである。

- ・過去の滋賀県教育委員会の調査報告書（近世民家、近世社寺建築、近代建築、近代和風建築、近代化遺産、庭園）の現状確認調査
- ・無住となった集落の出身者（町外移住者）への聞き取り調査と記録保存
- ・近代、現代の地域変遷に伴う詳細な地域史をまとめる調査
- ・各集落の祭礼や伝統行事の民俗調査、組織体制、運営体制などの調査
- ・保存技術・道具などの記録
- ・産業や生業などの変遷の記録
- ・動植物など自然環境の状況確認と諸問題の確認

聞き取り調査については、地域文化などを知る方の高齢化が進み、早急な調査が必要である。建築記録等は学術団体や専門家のサポートを受けながら、学生や地域住民の参加を促し、新たな文化財の掘り起こしと認識を広げるように進める。また、調査のワーキンググループができるよう、人材育成も今後検討が必要である。

さらに、現在活動している町民大学等の生涯学習の取組みに連動させ、継続した調査や情報収集をすることも検討しなければならない。既存の地元各種団体の協力も得て、情報を統合し、多賀町の歴史文化や自然環境に関係するデータベースとなるように今後の調査を推進する。

## 第2章 多賀町の概要

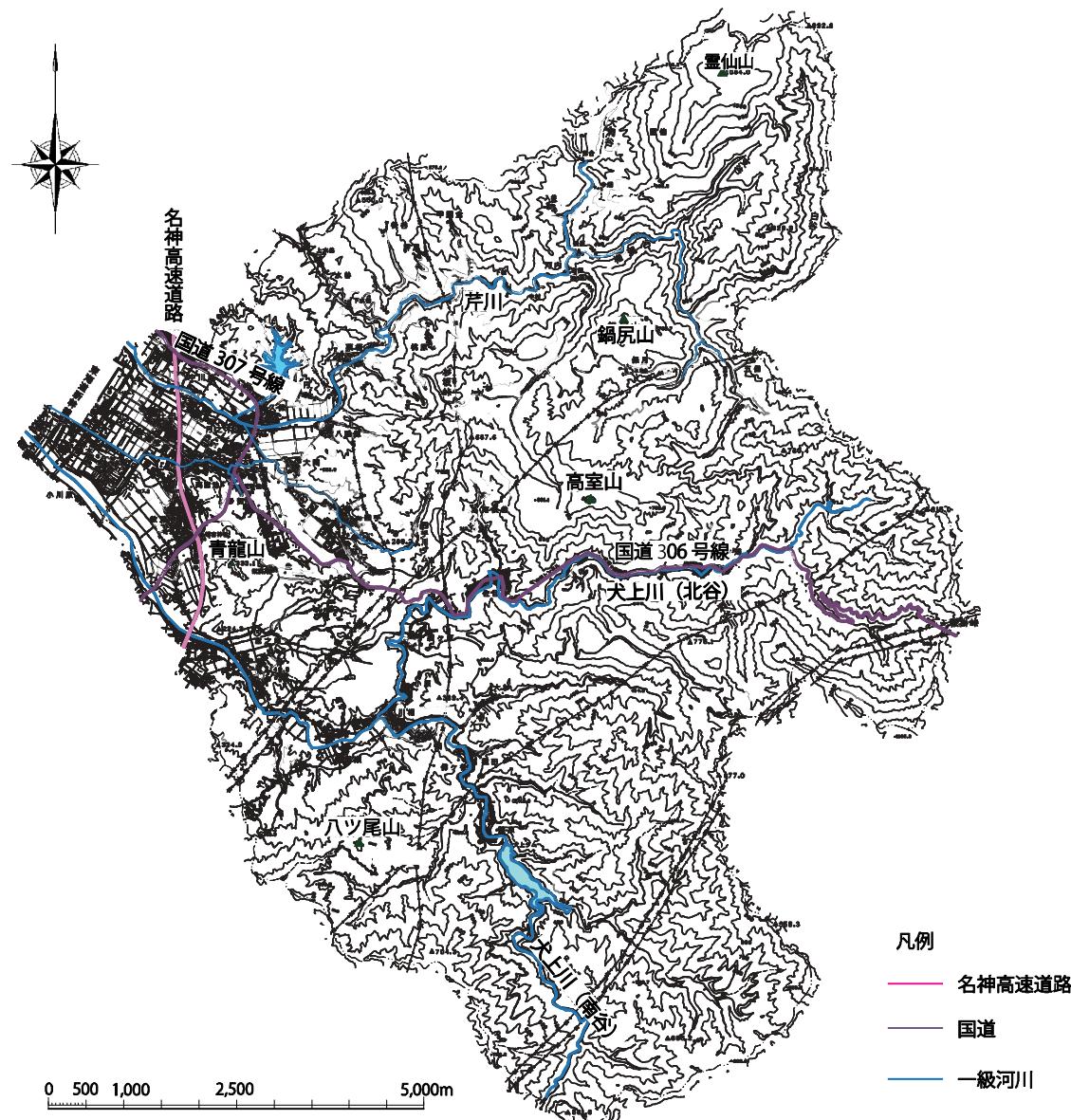
### 第1節 自然環境

#### 第1項 位置

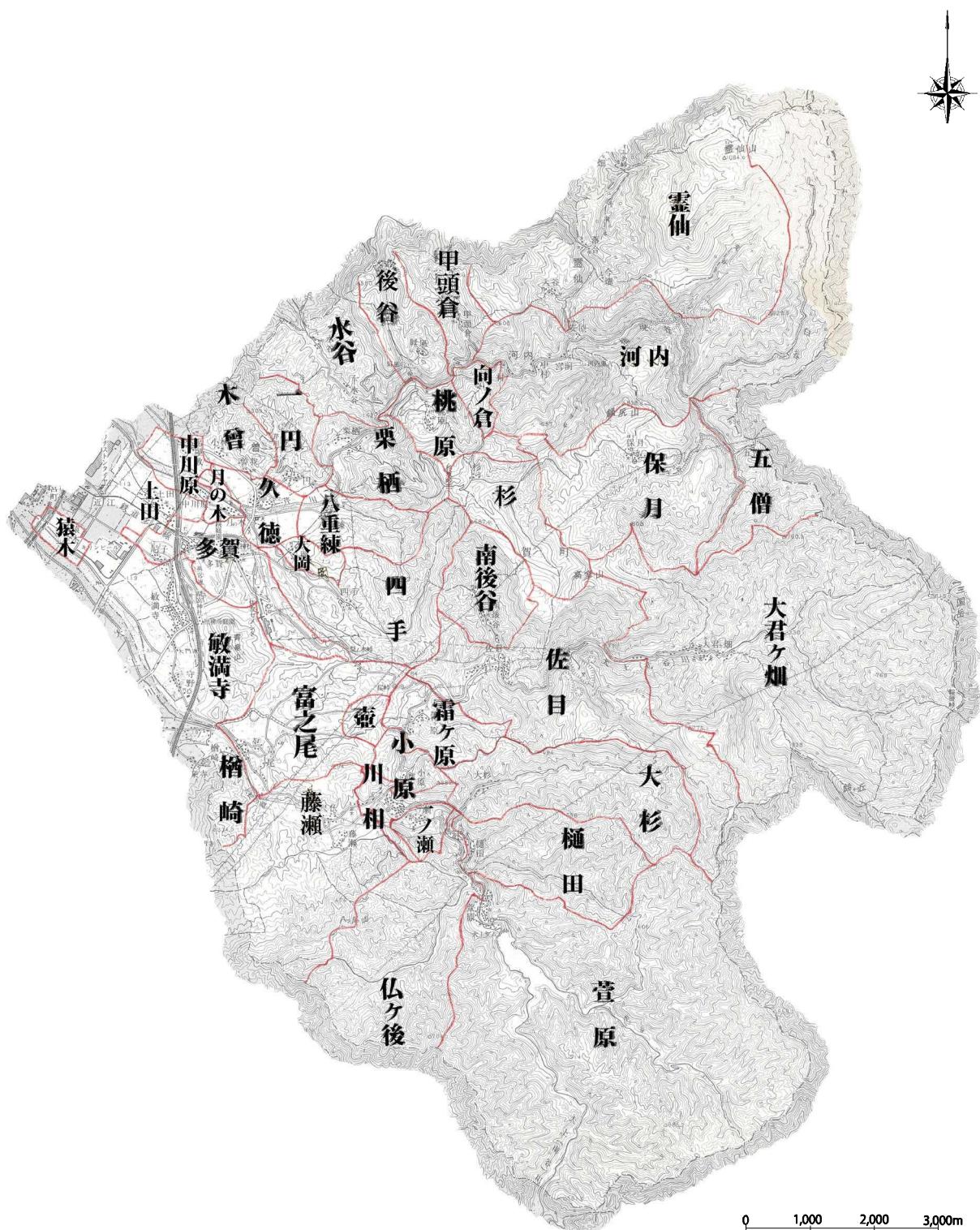
多賀町（町域 135.77km<sup>2</sup>）は、滋賀県東部の「湖東地域」に位置し、犬上郡（豊郷町、甲良町、多賀町）に属している。北は米原市、西は彦根市、甲良町、南は愛荘町、東近江市、東は岐阜県大垣市、三重県いなべ市に接している。東部は鈴鹿山脈に属し、標高 1,000 m 前後の山々が連なる。北部には鈴鹿山脈を源とする一級河川芹川、南部には一級河川犬上川が流れ自然環境に恵まれた町である。森林面積は町土の約 85.5% を占める。西部を南北に名神高速道路と国道 307 号線が通り、中央を東西に貫く国道 306 号線は、隣県三重県いなべ市へと通じている。市街地は町西部に位置し、多賀町役場や近江鉄道多賀大社前駅等がある。



[図 2-1] 多賀町位置図



[図 2-2] 多賀町全図  
(多賀町「多賀町全図」平成 20 年 (2008) 3 月に加筆)



[図 2-3] 多賀町字境界図（多賀町資料）

## 第2項 地形及び地質

### (1) 地形

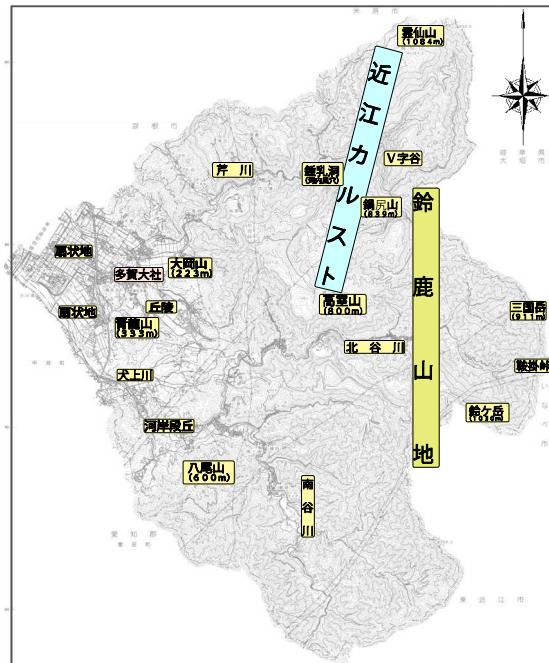
多賀町の地形は鈴鹿山地の麓を北北西—南南東に走る鈴鹿西縁断層とそれにほぼ直角に走る数本の断層に支配されている。鈴鹿西縁断層は約50万年前から近畿地方一帯で激しくなった断層運動（六甲変動）に伴って活動し、<sup>りょうせんさん</sup>靈仙山（1,084m）、三国岳（911m）、鈴ヶ岳（1,130m）等標高1,000m前後の山地を形成した。

町内にはそれらを水源とする芹川と犬上川の2本の一級河川が流れている。芹川は靈仙山を源流とし、延長21km、流域面積が61km<sup>2</sup>の河川で、上流域ではV字谷が顕著に見られるが河岸段丘は発達していない。また、靈仙山一帯は石灰岩地帯に特有の鍾乳洞やドリーネ、カレンフェルト等の地形が広がり、この地域を「近江カルスト」と呼んでいる。

一方、犬上川は川相地区で北谷川と南谷川の2本の大きな支流に分かれ、延長27.3km、流域面積は104.3km<sup>2</sup>と芹川より長く広域な河川で河岸段丘や扇状地が発達している。

犬上川の扇頂に位置する標高333mの青龍山は周辺から独立した円錐状の山で地域を象徴する山となっている。

また、青龍山の東山麓から大岡山の間には標高200m程の規模な丘陵が広がっている。町の面積の約10%を占める平野は鈴鹿山地から流れ出る河川によって形成された扇状地や氾濫原である。特に、犬上川は半径約1.5kmの典型的な扇状地が見られる。



[図2-4] 多賀町の地形の特徴  
(多賀町「多賀町全図」平成20年(2008)3月に加筆)



[写真2-1] 多賀町航空写真 山間部を臨む



[写真2-2] 芹川上流のV字谷



[写真2-3] 高室山のドリーネ



[写真2-4] 灵仙山のカレンフェルト

\*1 ドリーネ：すりばち状の窪地

\*2 カレンフェルト：石灰岩が岩柱のように多数露出したもの

\*3 カルスト：石灰岩地帯に特有の地形

## (2) 地質

多賀町において最も広い面積を占める地層・岩石は町東部の鈴鹿山地に分布する古生代から中生代（約2.5～2億年前）の石灰岩、チャート、緑色岩類等および砂岩や泥岩とチャートが混合した岩石である。石灰岩やチャートは海洋で堆積し、緑色岩は海洋底に噴出した玄武岩が起源で、しばしば橢円状（枕状）に膨らんだような岩石として露出する。砂岩や泥岩は大陸の河川によって沿海に堆積した岩石でチャートとともに複雑に混ざり合って観察される。

中生代白亜紀（約7000万年前）に活動した火山から形成した岩石は湖東地方中心に分布し、湖東流紋岩と呼ばれる（[図2-5]）。町内においても南西部の八尾山周辺に広く分布し、特に深谷林道は湖東流紋岩類の模式地とされ、火碎流により形成した岩石や典型的な柱状節理が観察できる。八尾山の北に位置する青龍山や大岡山も湖東流紋岩によって形成されている。

青龍山および大岡山周辺の丘陵には新生代第四紀更新世（約180万年前）の古琵琶湖層が分布している。約400万年前に伊賀上野に誕生した琵琶湖は地殻変動により北へ移動し、約180万年前になると東近江市から多賀町に湖盆を移したとされる。この頃の古琵琶湖層の地層を蒲生層と呼び、多賀町においては内湖のような環境であったことが分かっている。平成5年（1993）に発見されたアケボノゾウの全身骨格化石はこの地層から発見された。

町西部は芹川や犬上川の扇状地や氾濫原の砂や礫からなる沖積平野が広がる。また、ナウマンゾウの臼歯や切歯（牙）は芹川河床の古い礫層から発見されている。



[写真2-5] 霜ヶ原犬上川河床の石灰岩



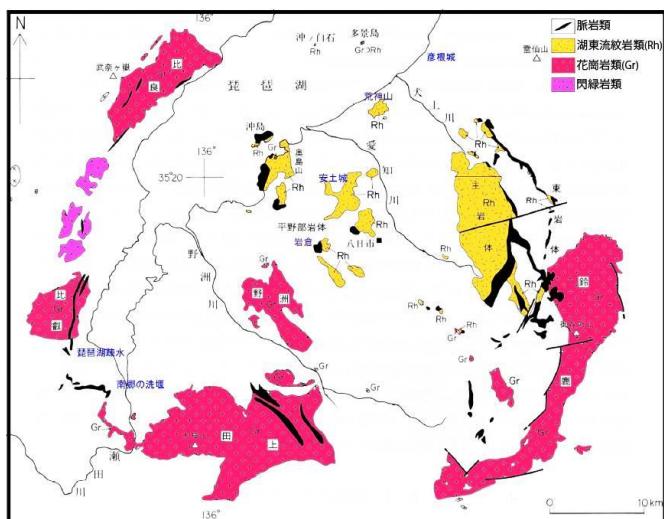
[写真2-6] 鞍掛峠の緑色岩（枕状溶岩）



[写真2-7] 層状チャート（佐目地区）



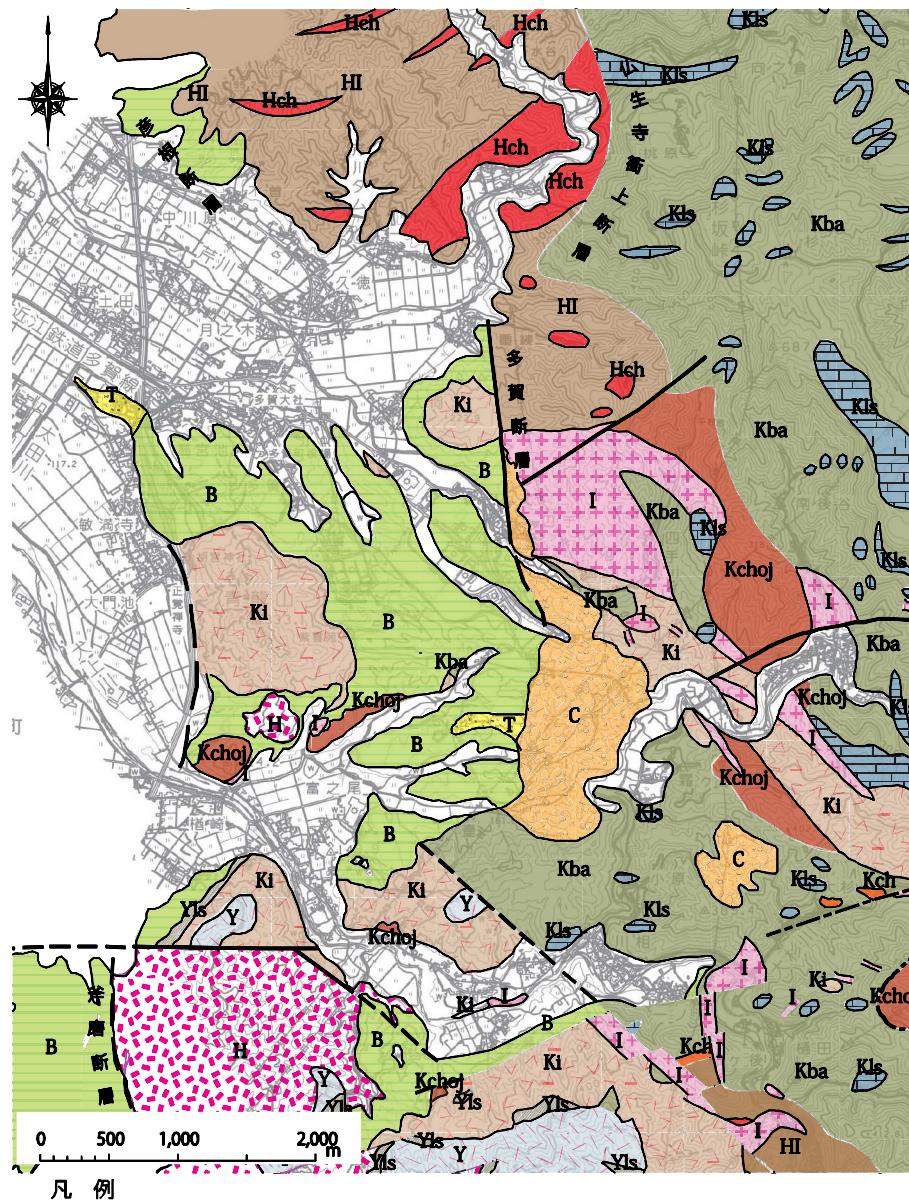
[写真2-8] 八尾山深谷林道の湖東流紋岩



[図2-5] 湖東流紋岩の分布図（図中の黄色部分）



[写真2-9] 芹川河床のナウマンゾウの切歯（牙）



\*1 美濃帯ジュラ紀付加コンプレックスの彦根ユニット（山懸 2000 の定義）は、宮村ら (1976) の彦根層群に相当する。その後の美濃帯の研究では、那比ユニット（脇田ら 1988）、飛騨川層群金山層（山北・大藤 2000）に対応する。中一後期ジュラ紀（約 1 億 7600 万年前～1 億 4600 万年前）の付加体のメランジュ基質とブロック

\*2 美濃帯付加コンプレックスの北鈴鹿ユニット（山懸 2000 の定義）は宮村ら (1976) の盡仙山石灰岩層に相当する。また、舟伏山ユニット（脇田ら 1988）、飛騨川層群舟伏山層（山北・大藤 2000）に対応する。前一中期ジュラ紀（約 2 億年前～1 億 6100 万年前）に付加したブロック。（石灰岩と玄武岩のブロックの年代はペルム紀）。

\*3 未区分ユニットは、大君ヶ畑層（宮村ら, 1976, 原山ら, 1989）にあたる。二疊紀～ジュラ紀のチャート（ブロック）（日本シームレス地質図では北鈴鹿ユニットのチャートブロックに含められている）

[図 2-6] 多賀町の地質図  
(宮村・三村・横山 (1976)、立川ら (1987)、原山・宮村・吉田・三村・栗本 (1989)、池田・大橋・上村 (1991)、山縣 (2000)、20 万分の 1 日本シームレス地質図 (産総研)、日本の活断層 (1996) 等を参考に多賀町立文化財センター小早川、但馬が作図した。)

### 第3項 気候

#### (1) 滋賀県の地勢と気候

滋賀県は南東に伊勢湾、北西に若狭湾が迫る本州で最も狭い位置にあり、周辺は1,000m前後の山地に囲まれ中央部には県の面積の6分の1を占める琵琶湖をたたえて近江盆地と呼ばれる。滋賀県の気候は、このような地勢を反映して寒候期には若狭湾から進入する気流、暖候期には大阪湾から県南西部及び伊勢湾から県東部へ進入する気流に大きな影響をうけている。滋賀県の気候は、日本海型気候区の北陸型と東日本型気候区の東海型及び瀬戸内海型気候区の3つに区分されているが、3つの気候区の中間的な要素も多いことからそれらの漸移帶として区分される場合もある。

#### (2) 滋賀県の気温と降水量

滋賀県には12カ所の地域気象観測所があり、そのうち気温や降水量等を測定しているのが彦根地方気象台を含めて9ヶ所である。[図2-10]のグラフはこれらの観測所の30年間(1981-2010年)の気温と降水量を表している。

##### ○気温

年平均気温の分布は、南部平野部から琵琶湖周辺の中央部で高く、周辺の山沿いにかけて低くなる。最も高いのは大津の14.9℃、最も低いのは信楽の12.2℃で、県内ではおおむね12~15℃の範囲に入る。

##### ○降水量

降水量は南部の信楽から北部の長浜へと県中央部を南北に1,450mm~1,550mmの降水地域が広がる。東部の山間部では1,600mmを超え、三重県境に近づくほど増える傾向にある。一方、西部の山間部は東部より多く、1,800~1,900mmに達する。さらに、福井県境においては2,700mmを超える地域がある。

県全体の平均降水量は約1,600mmであるが最大値と最小値に約2倍の差があり、降水量は地域差が大きい。また、経年変化をみると年によって大きな差がある。

#### (3) 多賀町の気候

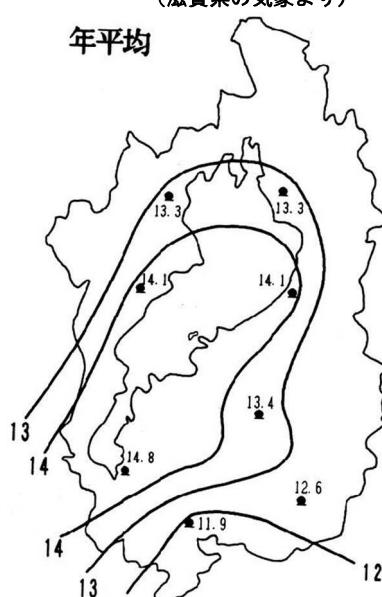
しもがはら  
霜ヶ原地区には昭和54年(1979)から平成18年(2006)頃まで降水量のみを計測するロボット雨量計が設置されていたが、それ以外の時期には気象台が管轄する観測点がなかった。従って、気候については前述した滋賀県全体の傾向や彦根の測定値や、平成26年(2014)から設置された大岡気象情報局の降水量データも参考に



[図2-7] 滋賀県付近の地勢図

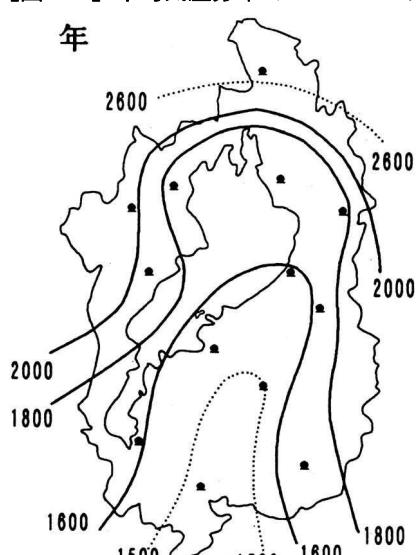
(滋賀県の気象より)

##### 年平均



[図2-8] 平均気温分布(1961-1992年)

##### 年



[図2-9] 平均降水量分布(1961-1992年)

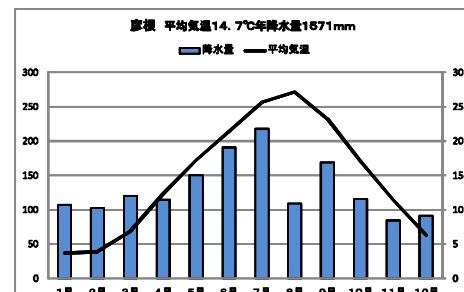
した。

琵琶湖周辺では穏やかに晴れた日中には湖上と陸上の気温差によって湖陸風が発生する。夏季は特に顕著で、琵琶湖から陸に向かって風速4～5m/sの湖風が吹いて気温の上昇を和らげ、日較差を小さくして温和な気候をもたらせる。平野部の気温は滋賀県の気温分布図から14℃と彦根より1℃程度低いと読み取れる。内陸にある多賀町は琵琶湖の直接的な影響は少ないが、彦根市に近い平野部は温和な気候と考えられる。一方、山間部については標高による気温降下や、大きな日較差による影響が大きいと考えられる。

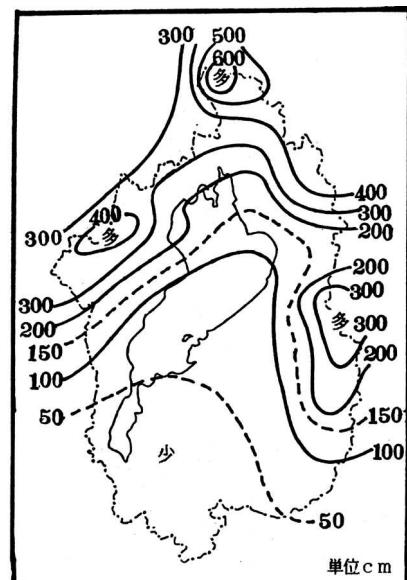
平野部の降水量は滋賀県の年間降水量分布図の等降水量線から約1,600mmと読み取れる。この線は彦根市にも描かれていることから多賀町平野部と彦根市の降水量はほぼ同じと考えられる。この数値は多賀町大岡気象情報局の平成27年(2015)の年間降水量が彦根の年間降水量とほぼ同じであったことから近年においても同じような関係にあると考えられる。さらに、山間部に入ると降水量は三重県境に向かって急激に増加し、1,800mm～2,000mmに達する地域があることがわかる。若狭湾から伊勢湾への気流の影響を受ける山間部、特に靈仙山は冬季に北西の季節風が直接当たり積雪が多くなる多雪地域である。年間降水量が山間部ほど多くなるのは冬季の積雪が要因で、このような現象は日本海型気候区の典型的なパターンである。つまり、平野部から県境までの距離はわずか10数kmの間に、温和な気候から豪雪地帯へと変化するのが多賀町の気候の特徴といえる。

#### (4) 降水量と生活

農業は古来より琵琶湖の水を利用せず現在も自然の降水に頼っている。町の平野部の降水量は平均して年1,600mmであるが、昭和14年(1939)のように1,000mm程しか降らない干ばつの年もあり、そのような時には神に頼り、敏満寺地区の青龍山の雨乞い、大滝地区の御池岳の雨乞い、久徳地区の靈仙山の雨乞いなど各地域での雨乞いが昭和年代まで続いた。また降った雨は必要な時期の灌がいに少しでも利用しようと、各地域では大きな労力を費やして池や沼を造り、水利に工夫を加えた。田植えから生育時期に起こった干ばつは、昭和の時代だけでも16回に達し、特に昭和14年(1939)は大干ばつの年で芹川の赤田井堰において争いがあった。しかしその時期、芹川や犬上川ではすでにダム建設による配水が決定されていて、それに基づく頭首工が完成していたため難を免れた。また、一方では植林による山林の整備も進み治水の意識も高まった。



[図2-10] 彦根の平均気温・平均降水量  
(1981-2010年)



[図2-11] 再深積雪の極値分布図  
(1961-1990年)



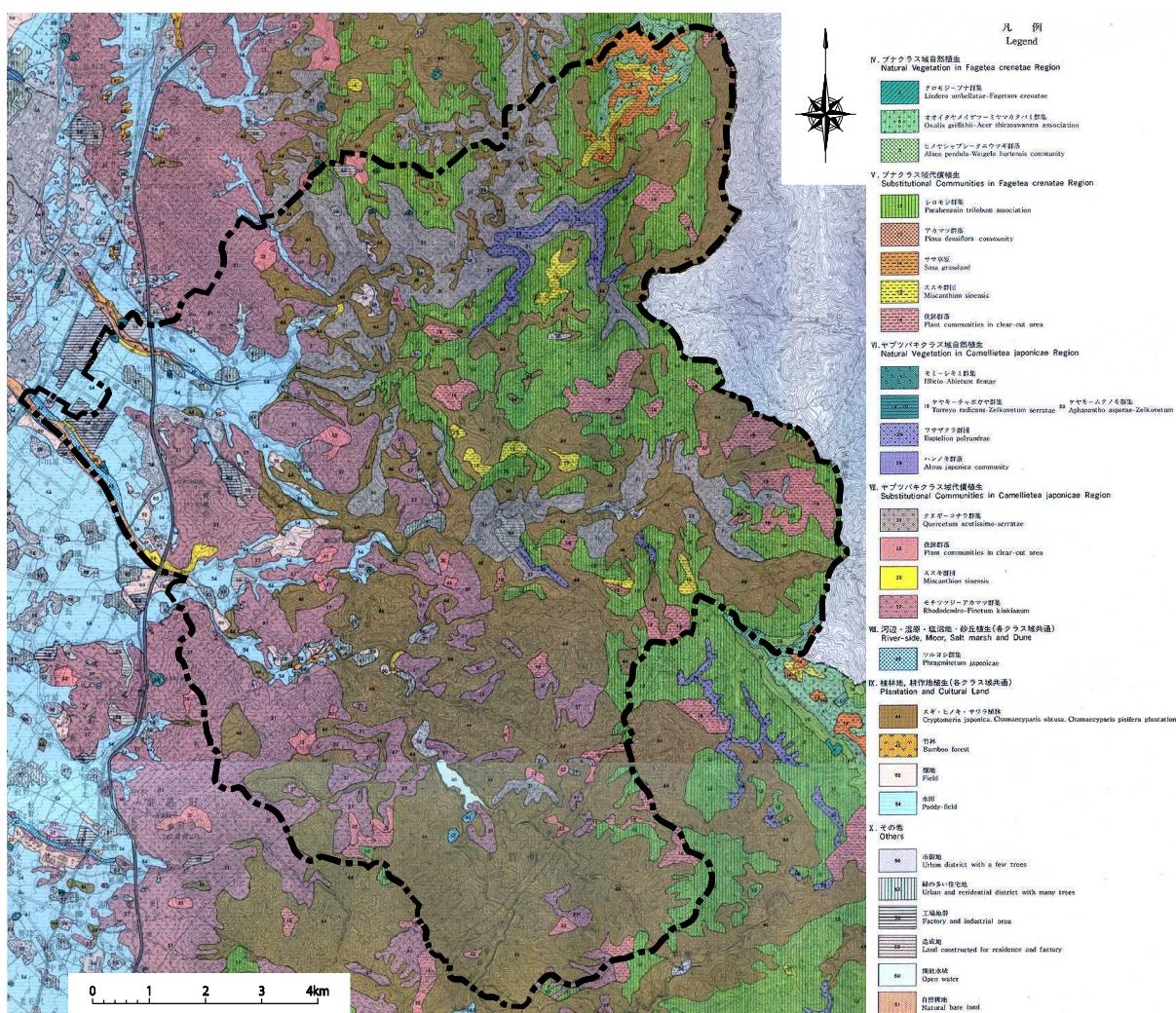
[写真2-10] 芹川の赤田井堰(右上は石碑)

## 第4項 植生

### (1) 植生

町内は、大観すると北部の山地部はシロモジ群集（黄緑色の部分）、南部の山地部はスギ・ヒノキ等の植林（茶色の部分）、西部の低山地部はモチツツジーアカマツ群集（赤っぽい色の部分）で占められている。シロモジ群集はブナクラス域の、モチツツジーアカマツ群集はヤブツバキクラス域のいずれも代償植生（二次林）である。つまり、山地部の大部分は代償植生（二次林）や植林など人の手が加わった森林で占められている。

一方、ブナクラス域の自然植生であるクロモジーブナ群集は今畠地区付近に、オオイタヤメイゲツミヤマカタバミ群集は靈仙山を中心とした石灰岩地域に分布している。また、フサザクラ群団やハンノキ群落は谷筋に分布している。



[図2-12] 現存植生「彦根東部・御在所山」  
(環境省「第2回自然環境保全基礎調査(植生調査)」1982年発行 に加筆)

### (2) 植物相

多賀町は「湖東地域」と呼ばれる琵琶湖の東部に位置し、気候や地質に影響を受けた多様な植物が分布している。冬季は日本海側の気候が優位となることから積雪も多く、日本海要素の植物も見られる。

東部には、石灰岩を主要基盤とする標高1,000m級の鈴鹿山脈が広がっており、権現谷付近は好石灰岩性植物の宝庫として知られている。また、鈴鹿山脈により隔てられているにもかかわらず、太平洋要素の植物も見られる。

南西部のエリアは中生代に形成された湖東流紋岩（酸性岩類）が基盤となっているため、酸性土壌のやせ地に生育する植物が見られる。

この他、鈴鹿山地を中心に分布しているものにスズカボタン（仮称）（一部養老山地を含む）やタキミチャルメルソウ（伊吹山地を含む）、ウスギナツノタムラソウ（三重県と奈良県の一部を含む）がある。

日本海要素の植物	エゾユズリハ、サワアザミ、スミレサイシン、タイミンガサ、チャボガヤ、ハイイヌガヤ、ヒメザゼンソウ、ヒメモチなど
好石灰岩性植物	イチョウシダ、イブキシモツケ、イワツクバネウツギ、ヒメフウロ、マルバサンキライなど
太平洋要素の植物	コバノミツバツツジ、スズカカンアオイ、スズタケ、トサノミツバツツジ、ナガバノスミレサイシン、ミヤコザサ、モチツツジなど
やせ地に多い植物	トウカイコモウセンゴケ、モウセンゴケなど
鈴鹿山地を中心に分布している植物	スズカボタン（仮称）、タキミチャルメルソウ、ウスギナツノタムラソウ

[表 2-1] 多賀町でみられる多様な植物

### (3) 特定植物群落

環境省は次の8項目の基準（A～H）にしたがって学術上重要な群落、保護を要する群落等をリストアップするための調査を都道府県に委託し、滋賀県においては、昭和53年（1978）と平成元年（1988）の2回にわたって調査を実施した。159群落がリストアップされ、そのうち多賀町では次の6群落が選定された。

- No.14 輪掛峠のホンシャクナゲ群落 (B)
- No.18 霊仙山のフクジュソウ群落 (B, G)
- No.19 今畑、神社裏のブナクロモジ群集 (G, H)
- No.121 霜ヶ原神社のモミ林 (E, H)
- No.122 藤瀬の湿原 (D)
- No.141 青龍山のアカマツ林 (E)

※ ( ) 内は下記の選定基準を示す。

#### (特定植物群落選定基準)

- A……原生林もしくはそれに近い自然林
- B……国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群
- C……比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる山地にみられる植物群落または個体群
- D……砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
- E……郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの  
(武蔵野の雜木林、社寺林等)
- F……過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G……乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
- H……その他、学術上重要な植物群落又は個体群

(4) 名木・巨木

- ・井戸神社のカツラ（滋賀県指定自然記念物）（多賀町指定天然記念物）幹周 11.6 m  
- 樹齢推定 400 年、大小 12 本の幹に分かれた株立ちで県下一の大木である。
- ・地蔵堂のスギ（三本杉）幹周 7.32 m  
- 樹齢推定 350-450 年、関ヶ原の戦いでこの付近の村人に援助を受けた島津藩の武士が、後日感謝の意を込めて植えたのではないかと伝わっている。
- ・杉坂峠のスギ（多賀大社の御神木）（滋賀県指定自然記念物）幹周 10.94 m  
- 樹齢推定 1000 年、この神木の傍らで多賀大社の万灯祭の元火をおこす。
- ・西音寺のヤツブサウメ（<sup>ざろんばい</sup>座論梅）幹周 0.47 m  
- 親鸞聖人お手植えと伝えられる。
- ・多賀大社のケヤキ（飯盛木）（滋賀県指定自然記念物）（多賀町指定天然記念物）  
女木 幹周 9.75 m、男木 幹周 6.32 m  
- 樹齢推定は共に 1200 年、養老年間（717-724）この木で作った杓子で食事をささげたところ、天皇の病気が平癒したといわれる伝承が伝わる。
- ・桜峠のシロバナヤマフジ（ヤマフジの白花品種）
- ・藤地蔵尊のフジ
- ・栗栖の時習館のウメ 幹周囲 4.2 m（全国 3 位）

以上のように植生が豊かで希少種の宝庫である町内にも、外来種の増加やシカの食害による植生の貧弱化といった問題が起こっている。また、宝庫であるがゆえに、希少植物のミノコバイモなどの盗掘被害も起きているのが現状である。



[写真 2-11] 井戸神社のカツラ



[写真 2-12] 地蔵堂のスギ



[写真 2-13] 杉坂峠のスギ  
(多賀大社の御神木)



[写真 2-14] 西音寺ヤツブサウメ



[写真 2-15] 飯盛木（男飯盛木）



[写真 2-16] 時習館のウメ

## 第5項 動物

町内の動物は、水辺の昆虫から山鳥、哺乳動物、洞窟のコウモリまで多様である。

町域には、標高 1,000 m 前後の山々が連なり谷を形成し、開発の手にもかからなかったことから、豊かな自然環境に恵まれている。また石灰岩地帯が多く、変化に富んだ地形を持ち、表日本植物区と裏日本植物区との境界に当ることもあり、植物相や動物相が豊富である。

卷末に町内の特筆すべき自然や動物の一覧表を掲載する [卷末資料 表2 参照]。

### (1) 陸貝（かたつむり）

芹川や犬上川の上流部には石灰岩地が広く分布し、これらの石灰岩地帯は近畿でも有数の陸貝の産地として知られている。なかでも河内の風穴周辺には多数の陸貝が生息している。

多賀町では、47種の陸貝が見つかっており、そのうち主なものは、次のとおりである。

- ・オオギセル ・ミカドギセル（県希少種）
- ・ヤマタニシ ・オオケマイマイ
- ・イブキクロイワマイマイ
- ・ヒラヒダリマキマイマイ ・タワラガイ



[写真 2-17] ミカドギセル

### (2) 両生類・爬虫類

両生類・爬虫類の中で特徴的なものは、次のとおりである。

- ・オオサンショウウオ（国指定特別天然記念物）
- ・モリアオガエル
- ・ニホンマムシ
- ・ヤマカガシ

オオサンショウウオは久徳地区の芹川上流部で昭和 62 年（1987）8 月に確認された。



[写真 2-18] オオサンショウウオ

### (3) 昆虫類

山地渓流には、カワゲラ類やアミカ類などの水生昆虫も多く生息している。このことは、芹川や犬上川の水が汚染されていないことの証拠である。また、環境庁があげる指標昆虫 10 種の内、8 種が生息する。

- ・ムカシトンボ（犬上ダム上流部、芹川上流部）
- ・ムカシヤンマ（芹川上流部）
- ・ハッチョウトンボ（藤瀬湿原）
- ・ガロアムシ目（甲頭倉、河内、佐目などの風穴）
- ・ハルゼミ（八尾山一帯、芹川上流部）
- ・ギフチョウ（犬上川上流部）
- ・オオムラサキ（芹川、犬上川上流部）
- ・ゲンジボタル（芹川、犬上川流域）



[写真 2-19] ハッチョウトンボ